

他のParenting Program

□ PET (Parent Effectiveness Training) : 親業

アメリカのトマス・ゴードン博士により開発された親向けプログラム。「子どもの気持ちを聞く」「親の気持ちを伝える」「対立を解く」ということを柱にし、グループの講座をインストラクターが導く。日本では70年代から全国的に広がる。

□ Nobody's perfect : ノーバディーズ・パーフェクト

1980年代にカナダの保健福祉省が中心に開発したプログラム。トレーニングを受けたファシリテーターによりグループセッションを6週間～10週間ほど行う。

対象: 0～5歳までの子どもを持つ親のうち、

- ・若い
- ・ひとり親
- ・孤立している(友人、家族が近くにいない、あるいは遠隔地に住んでいる)
- ・所得が低い、または十分な学校教育を受けていない

□ My Tree ペアレンツプログラム

子どもに虐待をしてしまう親の回復プログラム。2001年に森田ゆり氏により開発。

対象: 入院を必要とする重篤な精神疾患はないが、子育て不安、孤立、生きること全般への自信の無さ、伴侶との関係の悪さ、PTSD症状、未解決の傷つき体験などを背景に子どもを虐待している親。

他のParenting Program (その2)

□ Mother and Child Group : MCG

人間関係や子育ての悩みなどを共有し、心の問題に対してケアし、親子関係の修復をするグループワーク。

対象：軽・中等度の虐待をしている親

□ Common sense Parenting: コモンセンス ペアレンティング

身体的虐待を伴う事故のほとんどが子どもをしつけようとして起こっていることに注目し、暴力に頼ったしつけの連鎖を止められるように親に教育を行うことを目的としたプログラム。

□ STAR Parenting: スターペアレンティング

Stop and focus (立ち止まって問題を見つめなおす)、Think of ideas (アイデアを考える)、Act effectively (効果的に活用する)、Review, revise, reward (再検討、修正、ほうびを与える)。子どもの問題行動にうまく対処するためのプログラム。

(4段階のうちの「アイディアを考える」段階で、たくさんのアイディアを出すための5つのポイント「問題を避ける」「よい行動を見つける」「感情を認める」「限度を設ける」「新しいスキルを教える」がある。特に1歳から10歳までの子どもたちを持つ親が子どもとともに成長しつづけるために、使える具体的な手法。)

他のプログラムとTriple Pの相違点

- 精神論に中心があるものが多い中で、 practical で分かりやすく実行が容易である
(認知行動療法の理論に基づく/具体的な宿題や作業など)
- 幼児期から就学期までの子どもに使うことが出来る
(10代のプログラム、障害児をもつ家庭のプログラムなども存在する)
- 客観的な評価が出来る
- 様々なレベルでの介入方法をもっている
- 自己統制の枠組みを重要と考え、プログラムが作られている
- 10カ国で効果が科学的に実証されている

改めて 導入のメリットは何か？

- 児童虐待、子どもの問題行動の一次予防
- 発達障害の早期発見支援
 - 親に気づいてもらえる
 - より軽い症状で経過させることができる
- 地域での育児グループ活動による介入
 - 育児不安の解消
 - グレーゾーン児の親への支援
- 保健師、子育て支援従事者の負担の軽減、自信や意欲の向上
- プログラムの効果が評価出来る
- 幼児期から学齢期へのスムーズな移行
 - 危険な時期が縦割り行政のためにケアされていない